

こいが

http://niigatachihon.yukigesho.com/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2025年11月20日発行

第19号(通巻第379号)

発行者: 星山 圭 編集者:組織部

使で認識一致を図ってきましたが、この間、東日本 体交渉をはじめ、これまで課題や問題点について労 ユニオンとして要求や提言してきた内容も多くが 申3号・2025年度冬期に関する申し入れの団 新潟地本は10月29日、新潟支社より「2025年 冬期の取組みについて」の説明を受けました。

反映された内容となりました。

越後川口・大沢駅の雪抱え対策はじめ 交渉で議論してきた内容の多くが実現

|列車を6両停目に停車さ 設し、冬期間は全ての旅客 6両停止目標付近から約 せるとしました。 22・5mの融雪マットを敷 雪抱え対策として、上り |線路とホームの間に設置 するとしました。 22 mで車両1両分であり、 その上で、実際にどの程

本線に融雪マット敷設

■上越線越後川口駅・上り|ついて、長さは停目から約

|雪量に応じて補助要員に よるホーム側雪の除雪を 機械除雪と合わせて降積 実施するとしました。 また、越後川口駅構内の

支社側は融雪マットに

'位置付近の消雪能力を向

車両前面除雪・支障木伐採など

運転士による新たな取り組みの試行も

からないため、この冬期で |設備の整備 示しました。 ■上越線大沢駅・構内消雪 検証していくとの考えを 度の効果があるのかは分

設備改良により、列車停止 雪抱え対策として、消雪

少の防止を図ったとしま を図り、漏水による水量減 ことでメンテナンス向上 いる送水管を地上化する 上させるとしました。 支社側は、地中化されて 車両前面除雪対応 ■早期運転再開に向けた | が目的であり、これまでル

が出なくても確認が困難 管が地中にあるために水 であったことが改善され その上で、今までは送水 よる前面除雪を実施する |指すとしました。 ことで早期運転再開を目

した際、試行的に乗務員に

ました。

車両が雪を抱えて停車

るとしました。

ンタイムを縮小すること

支社側は、少しでもダウ

するとしました。

|能力に課題があったが、今 |は水の立ち上がり箇所が 図られる見込みだとしま 回の改善で水の立ち上が 遠くにあることから消雪 カ所であるものの、今まで くなり消雪能力の向上が に増えることで流れが良 り箇所が近くなり、2箇所 した。

るドア不具合対応 |■E653系凍結等によ

イヤーの整備により、雪の |じていることから、スプレ 合が起こり列車遅延が生 |凍結することで開閉不具 い、輸送影響の拡大防止を 除去作業時間の削減を行 き」のドアに付着した雪が

は車両および駅に配備し、 図るとしました。 支社側は、スプレイヤー

また井戸は従来通り一 | 氷塊スプレーも引き続き |駅は列車到着前に補充し|済後の実施となり、現場対 |手洗い器から温水を補充、 |使用するため、車両は温水 ておくとしました。 搭載するとしました。 ■E129系2Pan編 スプレイヤーは温水を

|成への霜取り用パンタグ ラフ搭載

|り用パンタグラフを搭載 |る集電不良が11件発生し Pan編成10編成へ霜取 しました。 し、集電不良対策を図ると 昨冬期は架線凍結によ

特急「いなほ」「しらゆ

|転を行うとしました。 | ELによるカッター代行 イベント等ではELの運 を行わず、初列車を2Pa n編成で運転するとした 方で、試験日など大規模 支社側は、信越本線では

の運転規制見直し

図るとしました。 を行い、安全輸送の確保を |ついて取り扱いの見直し |される場合の運転規制に 磐越西線で倒木が予想

|ル化し、試行していくとし ルがなかったためルー |列車の駅間停車リスクを には始発列車は回送扱い |変更した上で対象区間を 避けるために規制発令時 津川〜山都間に拡大、旅客 の降雪予報による条件に とするとしました。 く条件から、WNI社提供 従来の積雪深計に基づ

|支障木伐採 ■早期運転再開に向けた

車両・乗務員のみで、必要

対象は新潟支社所属の

な車両搭載装備品を配備

基本的にはお客さま救一することで、駅間停車の解一行うとともに、 員による伐採対応を試行 磐越西線において乗務 を図る ②各種データを活 用して早めの運転判断を

消及び輸送影響の拡大防

とで、

|夜間留置車両を増やすこ

を行う際は倒木の画像を 耐切創手袋を搭載し、伐採 社乗務員のみの対応であ く) ~山都駅間で、新潟支 止を図るとしました。 にノコギリ、ヘルメット、 系及びGV‐E400系 るとしました。 具体的には、キハ110 対象区間は新津(駅除

|との考えを示しました。 |が望ましいが状況による 応と応援部隊の同時進行 の追加設定 ■長岡駅ホーム留置車両 の判断と打ち合わせを行 っていくとしました。 撮影して協議、対応の可否

たことから、E129系2 及び指令で協議した後に いことを確認しました。 |その他環境を含め乗務員 |雪の量、周囲の積雪状況、 |員申告以上の指示はしな |対応することになり、乗務 お客さま案内や抱えた

■倒木が予想される場合

|Zの影響による短時間で |わせが発生した ③JPC |する事象が多発した ②重 の強い降雪が発生した、と り、倒木等による運転見合 部を中心に強い降雪があ り、列車が雪を抱えて停車 しました。 く湿った雪質の影響もあ

策を講ずることで、輸送障 部を中心にハード・ソフト 冬期の対策方針を、①山間 両面から雪抱えや倒木対 害発生防止・早期運転再開 その上で2025年度

置する予定としました。 上屋の下に留置させるた 教育を実施、1722Mは ため、未経験の乗務員には による入換作業が生じる 越線1722Mを留置す ムに信越線421Mと4 保するとしました。 めに、新たに停止目標を設 るとしました。 23Mの2本、4番線に上 423Mは誘導信号機 具体的には2番線ホ 朝通帯の輸送力を確

として、多量の降雪が見込 まれる場合にホームへの「ると説明しました。 出区困難による運休対策 長岡駅南部構内からの 判断し、 |みがあるため、施行の有無 は翌日の気象予測により 工事や投排雪用車の絡 指令手配で実施す

安定輸送や安全は確保できるの 働く労働者の視点から検討・ 検証を

期の傾向について、①山間 新潟支社は昨年度の冬 |社員に迅速に情報提供 た内容の多くが反映され 策の実行と検証を行う、 まれました。 が要求や提言を重ねてき 境の変化を踏まえ、各種対 行う ③組織再編や経営環 しました。 この間、東日本ユニオン

込まれました。 る、新たな取り組みも盛り 組みの試行をはじめとす 期運転再開に向けた取り 一方で、運転士による早

お客さま・ を行っていきます。 や課題はないか検討・検 ど、労働者の視点から問題 か、効果的な対策なのかな のか、安全は確保されるの 安定輸送が実現できる